



### 未来を一番知っているのは…

朝、門のところへ立っていると、たくさん子どもたちが個性的な話をし始めます。今日も、聞き耳を立ててみましょう。

「YouTubeを始めようと思っています」

えっ？YouTubeと言いましたよね？？

「そう、YouTubeを始めようと思っているんですけど…だから、生活をちゃんとしていないとPCなんてちゃんと扱えないから、ちゃんとした生活をしよう頑張っているんです」

そうか、そうなんだね。ちゃんと自分の未来を自分の想いで切り拓いているんだね。

その日、私は相当な熱さと決意と、私たちが知らない未来を垣間見ることとなったのです。

私たち大人は、つい自分の経験したこと以外のことには、恐怖にも似た拒否感を感じるものです。例えば、ユーチューバー。私たちからすれば、これが「夢の職業」ランキングをにぎわすなど夢にも思っていませんでした。そして、実際にどんなお仕事なのか、私はうまく説明することができません。

少し前のデータ（2011年度）になりますが、「その当時アメリカの小学校に入学した子どもたちの65%が、大学卒業時には今は存在していない職業に就くだろう」との予測が出されたことに、相当な衝撃を受けたところでした。そう、現在がその大学卒業時あたりになるのです。そう思いながら、のんきにドラマなんかを見ていると、確かに主人公たちが活躍している職業は、私たちが“知らない”ものが散見されます。転職エージェントに執行官に、そして別班？（私が知らないだけかも…）

私たち大人は、本当の未来を知らない。

では、だれが未来を知っているのか。というより、むしろ未来を予測すること自体が愚問なのかもしれません。アメリカ合衆国のコンピュータ科学者であるアラン・ケイは、次のように述べています。

「未来を予測する最善の方法は、それを発明することだ」

なるほど、納得。

よくよく考えてみると、本校に集う子どもたち全員がデジタルネイティブと言われる世代です。私たちが夢と思っていた携帯電話を超えて、手のひらに乗るパソコン（＝スマートフォン）ができておよそ15年。生まれた時からスマホがある時代に生きる子どもたちなのだなあ、とあらゆる場面でタブレット端末が躍動する授業を参観しながら、しみじみと思ったところでした。余談ですが、本校の子どもたちのタイピングスキルの高さには、本当に驚かされます。ユーチューバーも、確実に見える将来なのです。

「なりたい自分になる」という目標を掲げてスタートした榆木小学校は、そんな未来を創る子どもたちが集う学校でありたいと強く願っています。

いよいよ令和5年度も折り返しです。